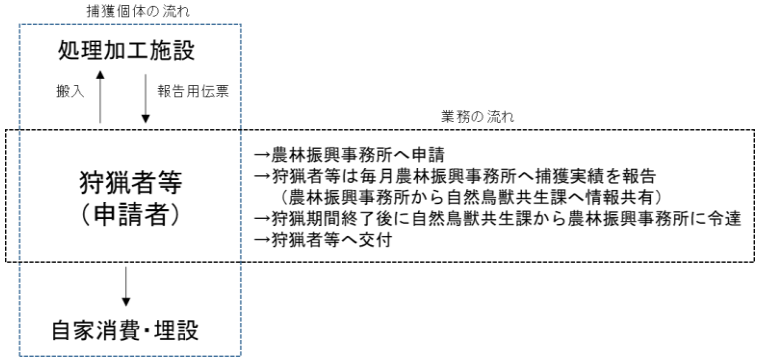
レビューシート（令和５年度レビュー対象事業：フォローアップ型）　様式３

ﾚﾋﾞｭｰ項目（事業名）	農業被害の軽減に向けたイノシシの捕獲の推進（狩猟期イノシシ捕獲拡大事業）			部（局）	環境部
				所管課	自然鳥獣共生課
				担当班	被害対策班
				連絡先	078-362-3463
開始年度	平成30年度	終了年度		関連計画等	第３期イノシシ管理計画（R4.4改定）
事業区分	☑ 国補助事業　□ 県単独事業				
実施方法	☑ 直執行　□ 委託　□ 補助　□ その他（　　）			実施主体等	

事業目的	イノシシによる農業被害の軽減のため、狩猟期におけるイノシシの捕獲に対して報償金を支給し、捕獲拡大を図る。 目標捕獲頭数：25,000頭／年 ※一般有害：15,000頭　狩猟期：10,000頭（うち狩猟期イノシシ捕獲拡大事業：7,000頭／年）
事業概要	（１）捕獲報償金の支給 ア　処理加工施設への搬入あり　国庫10/10 イ　処理加工施設への搬入なし　県1/10 市町1/10 特交8/10 （２）ICT大型捕獲おり、わな用捕獲センサーの整備や技術指導の実施 （３）豚熱感染確認区域における野生イノシシのジビエ利用促進事業（補助事業）
業務フロー	（１）捕獲報償金の支給  （２）ICT大型捕獲おり、わな用捕獲センサーの整備や技術指導の実施 申請（狩猟者等）→受付（県・市町）→貸与交付（県・市町）→（狩猟者等） （３）豚熱感染確認区域における野生イノシシのジビエ利用促進事業 交付申請（ジビエ処理加工施設）→受付・交付決定（県）
R5レビュー時の外部委員会意見	・イノシシの捕獲意欲を高めるには、儲かるということが不可欠である。 ・狩猟者を増やすことにも務められたい。猟友会の意識のアップデートや世代別の猟友会の形成などを検討し、若い人も入りやすくなるよう取組まれたい。 ・豚熱に対するPCR検査費の負担がネックとなり、食用として活用出来ず狩猟数が減っているのであれば、検査費補助を市に呼びかけてはどうか。淡路市の事例を他市に紹介されたい。
改善結果（改善状況 取組過程）	※R5レビューを踏まえた取組を実施し、現状に至るまでの取組過程や事業改善のプロセスを記載してください。 また、改善しなかった場合はその過程を記載してください。 ※他の部局にも紹介できる取組として、特に力を入れた改善の取組があれば、その内容を記載してください。 ・令和6年度から豚熱感染確認区域における野生イノシシのジビエ利用の促進を目的として、処理加工施設における豚熱PCR検査費用の一部補助事業を創設した。 本事業により、処理加工施設の受入れ体制の整備を図るとともに、安全性を担保したジビエ流通の確保を通じて、狩猟者の捕獲意欲の向上に努めている。なお、現在は丹波市及び淡路市の2施設において実施している。 ・狩猟者確保に向けた各種支援の実施により、狩猟免許所持者数は増加しており（R5：8,331人→R7：8,713人）、令和7年度の狩猟者登録者数も増加している（R5：4,673人→R7：4,694人）。また、狩猟者の増加や若年層の参入促進を図るために、令和8年度からは狩猟に関するポータルサイトの開設やPRイベントの実施を予定している。加えて、狩猟者の育成を図るために令和6年度に開設した兵庫県立総合射撃場を活用し、狩猟に関する基礎講習会やジビエの処理研修等を実施している。

レビューシート（令和５年度レビュー対象事業：フォローアップ型）　様式３

事業に要するコスト	区分		５年度決算額	６年度決算額	７年度当初予算額	８年度当初予算額
	事業費①		17,767 千円	13,358 千円	37,983 千円	33,056 千円
	経費内訳	報酬・賃金				
		委託料				
		補助金・交付金	1,660 千円	1,409 千円	5,033 千円	4,000 千円
		貸付金				
		その他	16,107 千円	11,949 千円	32,950 千円	29,056 千円
	（財源内訳）	（国庫）	(4,443千円)	(1,218千円)	(3,200千円)	(3,200千円)
		（特定）	(9,744千円)	(5,950千円)	(29,750千円)	(25,856千円)
		（起債）				
		（一般財源）	(3,580千円)	(6,190千円)	(5,033千円)	(4,000千円)
	予算額② ※精算補正前の予算を記載		25,943 千円	32,111 千円	37,983 千円	33,056 千円
	執行率((①/②)×100)		68.5%	41.6%	100.0%	100.0%
	人件費③（a＋b＋c）		従事人員 0.7人	従事人員 0.7人	従事人員 0.7人	従事人員 0.7人
			5,775 千円	6,033 千円	6,298 千円	6,607 千円
		職員給与費 a	5,009 千円	5,172 千円	5,532 千円	5,746 千円
		賞与引当金繰入額 b	416 千円	437 千円	416 千円	437 千円
		退職手当引当金繰入額 c	350 千円	424 千円	350 千円	424 千円
	総コスト(①＋③)		23,542 千円	19,391 千円	44,281 千円	39,663 千円

評価指標	指標名	区分	５年度実績	６年度実績	７年度見込	８年度目標	最終目標【年度】
	成果指標(アウトカム指標①) イノシシによる農林業被害額	目標	158,610	153,059	147,701	142,531	
		実績（見込）	101,215	155,097	集計中	(142,531)	
		(単位当たりコスト)	(0 千円)	(0 千円)	−	(0 千円)	
		達成率（見込）	156.7%	98.7%	−	(100.0%)	
	成果指標(アウトカム指標②) 狩猟期イノシシ捕獲拡大事業における捕獲頭数	目標	4,000	5,000	6,000	7,000	
		実績（見込）	2,111	1,024	(1,302)	(7,000)	
		(単位当たりコスト)	(11 千円)	(19 千円)	(34 千円)	(6 千円)	
		達成率（見込）	52.8%	20.5%	(21.7%)	(100.0%)	
価	成果指標(アウトカム指標③)	目標					
		実績（見込）					【年度】
		(単位当たりコスト)	−−	−−	−−	−−	
		達成率（見込）	−−	−−	−−	−−	
	活動指標(アウトプット指標①) 狩猟期イノシシ捕獲拡大事業の申請者数	目標	135	423	711	1,000	
		実績（見込）	157	147	(131)	(1,000)	
		(単位当たりコスト)	(150 千円)	(132 千円)	(338 千円)	(40 千円)	
		達成率（見込）	−	−	−	−	
指	活動指標(アウトプット指標②)	目標					
		実績（見込）					【年度】
		(単位当たりコスト)	−−	−−	−−	−−	
		達成率（見込）	−−	−−	−−	−−	
	活動指標(アウトプット指標③)	目標					
		実績（見込）					【年度】
		(単位当たりコスト)	−−	−−	−−	−−	
		達成率（見込）	−−	−−	−−	−−	
標	終期設定		有（　　）・ (無)				
	改善基準						

レビューシート（令和５年度レビュー対象事業：フォローアップ型）　様式３

自己評価	評価の視点	評価	目標に対する達成状況（総合的評価）	
	○有効性（評価指標に対する実績） ・県民ニーズを的確に踏まえた事業か ・民間での事業実施は見込めない事業か ・指標・目標設定は適切か ・活動実績は十分か ・想定された成果を達成しているか　など	令和3年度に県内で豚熱が発生して以降、生息数が減少傾向にあることから、捕獲数も減少しているものの、令和5年度～令和7年度までの間に合計4,437頭を捕獲した。この結果、農林業被害額については目標を達成している。	B：ほぼ満足のいく実施状況	県内での豚熱発生以降、野生イノシシの生息数の減少が想定される中で、捕獲数も低調に推移しているものの、効率的な捕獲技術の活用等に努めた結果、農林業被害額においては概ね目標値を達成することができた。
	○効率性（最小のコストで最大の効果） ・業務改革に取り組んでいるか ・コスト削減の工夫を行っているか ・ICTや民間活力は活用しているか ・受益者負担は適正か ・財源確保の工夫は行っているか　など	農業者の捕獲意欲を高めるため、令和元年度よりICTワナ等の対応整備や技術指導を進めており、イノシシによる農業被害対策の必要性について理解の向上に努めている。また、狩猟者確保に向けた支援事業の実施により、狩猟免許所持者数は増加しており、捕獲数の向上にも繋がっている。		
	課題・今後の方向性 ☑ 改善　□ 他事業と統合　□ その他 説明：今後、豚熱の収束に伴い生息数の増加が懸念されることから、処理加工施設における豚熱PCR検査体制の充実を進めることで、イノシシの商品価値を高め、捕獲数の増加につなげる。 また、狩猟者確保に向けた取組を継続するとともに、令和6年度に開設した兵庫県立総合射撃場を拠点として、狩猟者育成に係る各種研修の充実による捕獲技術の向上を図り、狩猟者一人当たりの捕獲数の増加を目指す。			

外部委員会意見
・R5レビューで指摘されたPCR検査費補助の創設や狩猟者確保策の推進など、改善に向けた取組は着実に実施されており評価できる。特に農林業被害額は概ね目標水準まで抑制されている。 ・一方で、事業の中核指標である狩猟期の捕獲頭数は目標を大幅に下回り、捕獲拡大事業としての成果は十分とは言えない。被害額の減少についても豚熱による生息数減少の影響が大きい可能性があり、事業効果の検証も求められる。 ・今後は、PCR検査費補助やジビエ利用促進の効果検証、捕獲インセンティブの更なる強化、若手狩猟者の確保、実態に即した目標設定を行い、捕獲頭数の向上につながる事業へ見直しを進めることも重要。 ・ジビエ利用促進が捕獲インセンティブの直結することはまちがいないので、もっとイノシシの肉のおいしさをアピール（味、栄養価など）していくような施策に力を入れていくべきではないか。 ・牛肉、豚肉、鶏肉が高騰していると連日報道されているので、食わず嫌いの人にどのようにジビエを食べてもらうかのアピールにはチャンスがあるように思う。